

第7次本別町総合計画策定審議会（第3回）会議

期 日 令和2年1月23日（木）18:30～
会 場 本別町体育館中競技室

杉臣会長、北谷職務代理者、橋本委員、井出直美委員、井出壬午委員、本間委員、
山下委員、新津直子委員、斎委員、寺島委員、今村委員
事務局：高橋課長、長屋課長補佐、小川室長、宮内主任

1. 開 会

2. 杉臣会長あいさつ

皆さまお集まりいただきましてありがとうございます。今年初めての審議会ですけれども、引き続き、本別町の未来を決める大事な審議会ですので、皆さまどうぞよろしくお願います。

3. 議 事

(1) 第2回審議会の振り返りと第3回審議会の論点について

杉臣会長 では3番目の議事に入らせていただきます。まず、(1)第2回審議会の振り返りと第3回審議会の論点について、事務局からよろしくお願いたします。

事務局 別紙1、1-2の3ページ目を説明。第1回目を7月10日に、第2回目を11月14日に開催した。主な内容については、アンケート結果からの方向性、10年後の将来像についてということでお話しした。具体的には4ページ目となる。第2回審議会のまとめということで、読み上げていくが、アンケート結果に対する意見ということで、人口減少はやむを得ない。計画は総花的ではなく事業を選択して実施していくことが必要。若い世代が経済的に厳しい状況にあるのではないか＝支援が薄いのではないかということ。生産年齢人口、特に女性の人口を増やす必要がある。若い世代になるにつれ本別に住みたくないというアンケート結果が出ている、郷土愛の醸成が必要なのではないか。現在も60歳代、70歳代の人たちが多く働いている。その人たちが退いたときに本別で働く人が減る。派遣職員については町外から町に来るので、人口増加にはなり得ない。若い人たちが本別に住み続けていくことができるような基盤づくりが必要だと。本別にとどまりたい人の意見として、家や仕事があるとの町との結びつきと、隣人・友人、親族など人と人の結びつきがある。この2つが重要ではないかという意見であった。10年後の将来像をどう描いていくのかということについては、犯罪、災害が少なく安全に暮らすことができる、子どもたちが元気に過ごせる、文化的な生活を送ることができる、これらのあたりまえの暮らしができる環境づくりが必要なのではないかということだった。また、これまでの話し合いの中で生産年齢人口の問題や、産業振興の必要性、個々の情報発信でまちづくりを進めていくべきという意見もあったが、若い人たちへの配慮や施策の必要が多く出ていたところであった。あと、まちづくりのキーワードや目標などについては、事務局で素案を作成してみなさんの意見を反映するという形で、前回の審議会を終えたところである。また、質問ということで、アンケートの内容がこれまでにどのように活かされてきたのかということと、不登校・引きこもりに対して新しい対応をどのようにとっているのか、何人くらいいるのかという形で質問が出ている。アンケート結果からの改善、対応については資料4ということで提示している。まだ全ての課で整理できていないということもある。1、2ページ目にはケアセンター、3ページ目には建設水道課、4ページ目が子ども未来課ということで、いまのところ3つの課でこの様に実施しているという中身になっている。引き続き、また取り組みをしているところもあるので、他の課については、提出され次第、お伝えし

ていきたいと思う。こちらについては、時間の関係上省略させていただくので、後ほど目を通していただきたい。あと、不登校ぎみな生徒に関する質問だが、教育委員会としては、把握はしているが、デリケートな問題であるので、正式な人数の報告は控えさせていただきたいということであった。学校における取り組みとしては、担任、養護教諭などによる定期的な家庭訪問と、保護者の関係というような中身もあって、保護者との連絡調整だとか、自宅に行ってお話を聞くということを実施しているようである。本人の自発的な登校の意欲が見られた場合には、他の生徒と会わない形で登校を促したり、登校・下校の時間をずらして対応している。また、朝についても自宅に迎えに行ったり、保護者も一緒に登校するというようなことを行っているようである。家庭の事情によっても学校に来づらいというような方もいるようで、そういったことについても、様々な部署との連携をしながら進めているということである。これについても、今後、経過があったら随時お知らせしていきたいと思う。以上が第2回の振り返りになる。

第3回目の論点ということで、議案の3ページに戻っていただく。3ページの右側、3回目審議会の論点についてということで、2つ目のところで、新しい本別町総合計画の方向性の確認ということで、①わかりやすい総合計画。町民のみなさんが一つの目標に向かっていけるようなスローガンづくり、これは今回は行わないが次回以降行っていくための話し合いにしていけたらと思っている。施策ごとのキャッチフレーズが必要かどうかということのをこの後議論いただく。②方向性・目標の明確化では、題目の3番のなかで、キーワードの話をさせていただくので、この部門についてはそこで整理させていただきたいと思う。③目標の明確化では、数値目標を設定していくべきかどうかということでお諮りしたい。④わかりやすいように内容をスリム化していきたいと考えているので、こちらの是非についてもお話しさせていただきたいと思う。3.まちづくりに向けたキーワードについて。24個ほどのキーワードを提示させていただいた。これに対しての追加項目だとか修正だとかを議論いただければと思う。4.部会の開催について第6次総合計画後期計画総括。その後、5.今後の取り組み予定について説明させていただく。以上が第2回、第3回の内容となっている。

杉臣会長 ありがとうございます。今の説明に対して、質問等がある方はいらっしゃいますか。この論点を踏まえて、今日の審議会を進めていくということでもよろしいでしょうか。(はい。)

(2) 新しい本別町総合計画の方向性の確認

杉臣会長 それでは、議事の(2)に移りたいと思います。新しい本別町総合計画の方向性の確認ということで、事務局からお願いします。

事務局 別紙2の議案5ページ目を説明。新しい総合計画の方向性として4つほど挙げている。①総花的ではなく、わかりやすい、伝える、伝わる計画を作りたい。町民みんなが目標に向かってひとつになって行動できるよう、わかりやすく、一体感を持てるようなスローガン、キャッチフレーズ、計画内容にしていきたいと考えている。②方向性・重点施策の明確化。何に力を入れて、まちづくりをしていくかということのを明確に打ち出してしていきたいと思う。③目標の明確化。これについては後程お諮りするが、数値目標を設定しながら、また、評価基準を指標で表し、総括して、次の政策等に進めていけるようにしていきたい。④コンパクト。いままで100ページほどの総合計画の中身となっているが、なかなか町民の皆さんの手に取って見ていただくということにはなっていないと思うので、もう少しわかりやすく、簡素的に主な内容を掲載してシンプルにしていきたいと思っている。また、ここには記載していないが、厳しい財政状況にあるので、財政、行政改革だとか、町民の皆さんの声を反映するというような中身にしていけたらと考えているので、ご意見をいただければと思っている。

杉臣会長 ここでは、新しい総合計画の方向性というものが大きく4つ挙げられていましたけれども、これに対してご意見またはご質問等がありましたらお願いします。それでは、新しい計画の方向性についてはこの4つを中心に話し合いを進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(3) 施策の理解や親しみを持てるようキャッチフレーズをつけることについて

参考資料：第七期帯広市総合計画【案】資料1

杉臣会長 それでは、議事（3）施策の理解や親しみを持てるようキャッチフレーズをつけることについて事務局の方から説明をお願いします。

事務局 それでは、まちづくりの基本理念となる、先程もお話させていただいた町民の皆さんが目標に向かって一つになれるようなキャッチフレーズをとということで、帯広の計画素案では資料1の8ページに記載されている。将来のまちの姿について「あおあお ひろびろ いきいき 未来を信じる 帯広」となっている。このような形でキャッチフレーズを皆さんのお話の中から作って、次回以降どんおはかりしていきたいと思っている。帯広市では、施策ごとにキャッチフレーズをつけている。17ページ。施策1として、健康なからだところをつくるがキャッチフレーズ。計画の内容については健康づくりの推進。施策2は、笑顔でつなぐ、みんなの子育て。子育て支援の充実というように、一番上にキャッチフレーズがついている。19ページのところでは、たくさんの小さなおせっかいがある暮らしと書いてあるが、私の感覚で言うと、この、「おせっかいがある暮らし」というのはイコール地域福祉の推進に繋がっていくのかと疑問も。キャッチフレーズが先行してしまっていて、あいまいというか施策とは違う方向にイメージが行ってしまうのではないかと思う。24ページを見ていただくと、世界に冠たる十勝農業を創るということでキャッチフレーズがあるが、下では農林業の振興となっていて、林業の部分がキャッチフレーズからは連想されない。それから26ページ。アウトドアの聖地にするということだが、これは観光の振興という施策とは結びつきづらいつ感じている。キャッチフレーズを施策につけることについては、26ページを例にすると、「観光の振興」ということで題目をつけて、その下に目標をつけたほうが良いのかなと思っている。キャッチフレーズを施策につけることについては、身近に感じていただけるメリットもあるのかなと思っているが、事務局としてはキャッチフレーズを入れなくても良いと思うが、皆さんのご意見を伺いたい。第6次の計画では、〇〇の振興としてその下に施策が3つ、4つがつく形で作っていた。

杉臣会長 では、事務局から説明がありました、キャッチフレーズをつけることについて何かご意見等はございますか。考えておられるのは帯広の総合計画の素案にあるような施策ごとにキャッチフレーズ、イメージをつけるかどうかということで、よいですか。

事務局 はい。

委員 全体的にこのキャッチフレーズは必要ないんじゃないかと思う。政策が遊びみたいなかんじに聞こえてしまうし、言葉によっても誤解が生じる可能性があると思うので無くても良いと思う。

杉臣会長 ありがとうございます。他はいかがでしょうか。事務局としては、キャッチフレーズは要らないのではないかとということでしたが。委員さんの意見も同じということでもよろしいでしょうか。

委員 キャッチフレーズをつけると遊びっぽく感じてしまうところがある。ただ、何かをするためにつけるのであれば必要だとは思いますが、こういう大事なことにつけることはしなくても良いと思う。

杉臣会長 それでは、今の意見に対して何か別の意見等が無いようでしたらキャッチフレーズはつけなくても良いということで話を進めるということでもよろしいでしょうか。（はい）では、そのように進めるということをお願いします。

(4) 目標の見える化を図るため数値目標を設定することについて

成果指標・目標値の設定⇒アンケートによる満足度や事業結果

参考資料：第七期帯広市総合計画【案】資料1

杉臣会長 続きまして、議事の（4）目標の見える化を図るため数値目標を設定することについて事務局からお願いします。

事務局 帯広の計画書素案でも、黄色の部分が「目指そう指標」ということで一つの施策に対して一つの目標が記載されている。先程も今後の計画についてのところでお話しさせていただいたが、事務

局としても計画を継承して次の計画に活かすだとか、進捗状況を管理して設置目標があることによって、それに向けて総括し、次の計画に移すためには指標が必要なのではないかと考えている。帯広市を見ていると、「目指そう指標」が施策に1つでそれだけで良いものなのか疑問に思う。1つだけの指標では評価していくことが非常に難しいと考えている。例えば、19ページ。地域福祉の推進のところ、「10万人あたりのボランティア登録者数」とある。ボランティアを実施するにあたって、ボランティア登録をしなくても、実施できるのではという点や、地域福祉の推進という施策で、これだけが活動ではないと。また、22ページ。「医療体制の安定的確保」に対して、「10万人あたりの看護師就業者数」とあるが、看護師だけが確保できればいいのか？というふうにも捉えられるかと。資料2のところ、パブリックコメントが市民の方から寄せられている。4ページの一番下のところに、「目指そう指標とは、いい加減な表現方法と思う。」というような意見だったり、5ページの一番上の「思っていることを指標とすることでいいのか。」というご指摘もある。これは1つの指標だけでは誤解を招くこともあるので、施策に対して複数の指標を定めながらその目標に向かっていくべきかと。方向性については、帯広市と同様に矢印等で示しながら基準値などを示していきたいと思っている。場合によってはアンケート調査、満足度調査等を実施しながら評価をしていく形をとっていききたいと考えている。これまでの計画では指標は定めていない。新たな計画では、そのような形で指標を定めることについてご意見等を伺いたい。

杉臣会長 今の目標の達成を示す指標について、設定するとしたらどのような指標が必要か。帯広市だと1つしか指標がないのですけれども複数の指標を定めたりだとか、あるいはどのようなものが良いのか、これについて、何かご意見等ある方はいらっしゃいますでしょうか。まずは、指標を定めることについてはいかがでしょうか。

委員 先程から話を聞いて、あくまでも帯広市のことであって、本別は帯広の真似をしなくても本別なりのやるべきことをきちんとつくるべき。今の説明だと、真似をしなきゃならないように聞こえるので、そうじゃなく、きちんとした本別の形でやっていくべきだと思う。

杉臣会長 今のご意見について、事務局からお願いします。

事務局 おっしゃるとおりであって、帯広市は本別よりも1年早く総合計画が策定となり、来年の4月より新しい総合計画がスタートする。同じような時期に取り組んでいるということもあって、今回はそれを見本に参考資料という形で提示させていただいた。決してこの計画を真似したりするというのではなくて、見本として私がそう思うということをお話させていただいた。本別らしいものを作成してというご意見として承る。必ずしもこのような形をとるわけではないということをご理解いただきたい。

委員 人口規模も財政も全部違うので、本別の現状に沿ったものを。これは一例として上げたのかもしれないが真似をする必要はないと思う。

委員 これまで策定委員として経験した人であれば、どういった流れでこのようなものを組み立てていくのかということは分かるし、なんとなくイメージはできると思うが、委員が初めてという人が多いので、近い所で世情的にも似たような悩みを抱えている、まあ帯広市とは全て一緒にはならないが、このような例があると示されたことであると思う。ただ、今話しているのは目標を定めるかどうかということなので、これまで目標を作っても、その後どうなったかというのは確かに委員でありながら、全く見えていなかった。だから、目標を設定してそれを数値化できるものであればアンケートをとって、町民の方がどう思っているのか、どう成果が出たのかということは知りたいと思う。ただ、施策によっては数値化するのはとてもむずかしいものもあるし、一つには定められないこともあるので、施策を決めた段階でそれぞれの目標をどうするかというのをやっていけば良いのではないかと。目標ありきじゃなく、施策ありきで進めていくのが良いと思う。

杉臣会長 ありがとうございます。

委員 計画そのものは数値化することが大切。抽象的にいくら目標を立てても10年後にどうなっていくのかということは数値で示して、結果こうなったと評価していかないと、内容を見直すときにも、現在までの進捗はここまでしか行っていない、だから後半で頑張らなくてはならない。または、順調に行っていると。数値で見える部分については数値で示す。ただ、数字では表せられない指標というものも当然出てくると思うので、そういう部分については抽象的な言い方にならざるを得ないということもあるが、できるだけ、目標は具体的に数値で示せるものは示す、というやり方が良いかと思う。

杉臣会長 ありがとうございます。他に数値を設定すること自体について他にご意見のある方はいますか。

委員 私も、この総合計画の委員になったのは今年が初めてなので、この議論の中身を含めて、いろいろとわからないこともある。これは、これからの10年後の本別をどうするかという総合計画なので、いま委員がおっしゃられたように、数値化しないことには、いわゆる総括目標を達成しにくいという意見もあるし、他の委員がおっしゃたように、数値化しなくても良いのではないかと様々な意見がある。しかし、そこらへんをどう議論していけば良いのかわからない。ここで、一度議題は戻るが、アンケート結果で、若い人が本別に住みたくないというアンケート結果があったが、その主因とは何なのか。そこを捉えているのか、教えてもらいたい。

杉臣会長 今の質問に対して事務局からお願いします。

事務局 特に、中学生・高校生の方が町に住みたくないという回答が多かった。やはり、大学がこの地域にあるのは帯広で、音更には短大があるが、それ以外には無いので、大体は札幌圏の大学に進学するという状況にある。入学後は就職活動をするわけだが、札幌圏だとかの都心部に就職されるという方が多くいらっしゃるのかと思っている。アンケートの中では、「やはり一度は本別を出てみたい」という意見があるので、都会への憧れというような部分があるとも考えている。一方、農業の方は、若い方が事業を継承して事業主として活躍している方が多くいらっしゃるように思う。それはやはり農業の基盤が安定しているということで、農業をやってみたいという人も増えている。以前の会議では、進学後札幌や帯広から戻ってきて働くような場所づくりということも必要ではないかというお話があったので、これからはそういった方々が戻ってこられる環境ということも整備していく必要があると思っている。ただ、情報通信技術などが発達していて、今の中学生とかは、半分以上が、現在は存在しない職種に就くとも言われている。例えば昔は考えもしなかったユーチューバー。情報を発信してそれを収入源とするような職業を希望している人もいる。本別でできる仕事づくりについてそういった部分でも、我々も追いついていく必要がある。

事務局 皆さんに集約した町民アンケート結果ということで配布しているが、今日持参していない方については、自宅で見直していただきたいと思う。アンケートの9ページに「本別町から別の町に移りたい」理由ということで記載をしていただいている。結果を見直してみたときに、若い世代で買い物だとか病院だとか、都市的サービスの面で、地方の商店でいえば品揃えの関係だったり、若い人たちの感性では、住みやすさが少し、帯広市周辺に比べると不便を感じるとか、あるいは人口減少が続いている中で、将来的な不安が多いと思う。このままでは寂れていくばかりで住みづらくなっていくのではないか。あるいは負担が大きくなっていくのではないかと。住み続けたいのだけれども、自分の子どもが高校生になるときに高校がなくなっていたら、他の町に移らなければならないといったようなインフラ整備などの不安も大きい。先程も話に出たが、やはり将来的には仕事、残りたいけれども希望する仕事がないという意見もあるし、また、将来的に子どもが町から出て行ったときには、そこに行って生活しなければならぬなど、生活と社会環境が密着している。希望する環境のありかたが若い世代にとってみたら、大きなまちを選択するとなるのではないかと考えている。

委員 ありがとうございます。

委員 アンケートの結果は、子どもの回答。だけど、きっかけは親御さんの影響がある。周辺環境が影響している。子どもがいくら本別に居たいといっても、働く場所が無い。働く場所が無いのに、この

まま町に残りたい。となっても親としても遊ばせておくわけにはいかない。やはり、本別に安定して良い環境で働ける場所をつくるということが一番である。そういう場所をつくれれば、自然発生的に子どもはそのままここに残る。明治や農協、北糖だとか役場で、地元枠で毎年最低1人は採用するということも考えてほしい。もし、採用してくれれば、税金をいくらか割引するというような制度を条例でつくることをして雇用を確保することが町として必要ではないか。農業については、現在は農業生産が、少しずつ上がってきているので、農業をやってみたいという夢を与える状況が出来つつある。現状はアメリカの輸入品問題などがあるが、農産物の生産が安定して、所得も確保できる状況にある。昔は、このような農業状況であれば子どもたちにはやらせられない。離農して家を畳んでしまう農家が多かった。今は畑も大きくして、儲かる農業をやろうという意欲がある。あとは行政なり農協なりがサポートして農家を育成していくやり方をとっていけば、まだまだ農業の生産量は上がるのではないかと思う。人口が減るということはもう仕方がない、という議論は前回までにやってきた。減るのは仕方がないが、十分に食べていける町という、まちづくりをしていくことが必要なのではないかと。本別に住んでいたら楽な暮らしができる。子どもに良い教育できる。仕事もある。というような目標のために、この計画を進めていくと良いのではないかと思う。

杉臣会長 ありがとうございます。これまでの話は数値目標を設定すること自体については特に反対の意見は無いということでもよろしいでしょうか。ただ、数値化や指標が、本別町には合っていないだとか、施策によっては数値で表せない場合もあるので、具体的な内容を提示して目標にするということでもよろしいでしょうか。他に指標を作成すること自体に何かご意見等がありますでしょうか。

委員 いろいろな策定をしていく中で、アンケートの結果をみると、不満などやアイデアなどが多く書かれている。そういうのは、ここだけの話で終わらせるのではなく計画にも反映させる形でつくっていけばいいのではないかと思う。

杉臣会長 ありがとうございます。確かに、指標を作成することになった場合、どのように作成していくのか、どのように仕上げていくのか、事務局の考えをお伺いしてもよろしいでしょうか。

事務局 この後、皆さんと重点政策の話をしていただくが、審議会で議論いただいた内容等を、町長に答申をしていく。そのなかでアンケートではこういう結果が出ている、審議会からこういう意見が出ているということや、次の計画ではこう活かして行く必要があるということなどを答申として作成していく。計画の中でもアンケートのご意見だとかここで出たご意見等も反映させていく部分もある。ただ、ストレートにそれが計画書に出てこない場合もある。計画内容を細かくひとつひとつ書いていけば表現することもできるかもしれないが、新しい計画ではシンプルでわかりやすいような計画にしていきたい。細かいご意見、例えば、道の駅の駐車場を改善すべきだなどという意見があるが、総合計画書の中では観光施設の充実という表現になる。具体的な内容は関係する各担当部署の個別計画で意見を計画に反映させていくという形になる。

杉臣会長 ありがとうございます。委員さんの意見は指標を全てどのようにするのか、また、アンケート結果は計画に活かされるのかといった旨の質問だと思えますが。

事務局 先程、委員さんの方からご意見があったと思うが、施策を決めて行くなかで、その施策の実現のためにこれとこれについて、今はこれだけだけど、ここを上げて行くとか、そういった形の中で施策を決めてから、実現するための目標を設定して、皆さんから意見をいただきたいと思っている。また、場合によっては先程の話でもあったように政策によっては数値化できないこともあるので、そういう部分については、無理に指標を定めるのではなくて、別の形で表現する必要があると考えている。先に政策を決めてからという形で進めていけたらと思う。

杉臣会長 ありがとうございます。まず施策を設定してから、それによって指標を定めていくという形でよろしいですか。その際にアンケート結果をふまえたうえで、指標を設定していくということでもよろしいですか。今のご意見等をふまえて、施策について指標をつくるということに関しては進めていくということでもよろしいでしょうか。他に意見が無ければ次に進めさせていただきますが。

委員 いろいろな委員さんの意見を聞いて、施策があつて数値目標を定める必要があるということは理解する。恐らく帯広もわかりやすくするために、施策ひとつにひとつの指標にしたのではないかと思う。だからそぐわないと思われることもあるかもしれないが設定すべき。けれども表現が難しいところもある。そのような所はアンケートを基に評価をつくることになるのか？アンケートを基に何%の人が良く思っているとか。そうするしか無いように思う。そうすると指標のつくりかたも難しいと思うけれどそのように理解してよろしいか。

杉臣会長 ありがとうございます。今のご意見に対して、事務局からお願いします。

事務局 おっしゃる通りで、帯広市の計画素案にも設定が難しかっただろうと思われる箇所があります。なかなか数値を設定しづらいものについては、やはりアンケート調査の結果により判断していくしかないと思う。だが、そんなに何回もアンケート調査が出来ないという状況もあろうかと思う。これについても、施策を決めた段階でまた議論して行って、基本的には今ある数値化できないものについては、満足度調査などという形で進めていこうとは考えている。あと、ご意見のあつた一つにひとつの指標にして、わかりやすくしたのではないかという点で、この基本計画の下に事業実施計画というものがあつて、向こう3年間の計画を毎年作っていくので、それには具体的な事業内容も出てくるので、ご指摘のとおり、わかりやすく明確にする意図があると理解をしたところ。

杉臣会長 では目標を達成するための数値を設定することについては進めていくという方針でよろしいでしょうか。(はい)

(5) わかりやすいように内容をシンプルにすることについて

杉臣会長 では、議事の(5)に移ります。わかりやすいように内容をシンプルにすることについて、これについて事務局からお願いします。

事務局 内容をシンプルにすることについて、前回の第6次総合計画だが、見ていただくと冊子が厚い。現状と課題についても半ページほどにわたって書かれているような状況になっている。内容が伝わりやすということでは良いと思うが、これをすべて読みきるとなるとかなり時間がかかるし、根気がいる。町民の皆さんに手に取って見ていただいて、理解いただくのは難しいかと思う。そこで、半分くらいのページ数にしていきたいと思っている。そうすると伝え切られない部分もでてくるかもしれないが、いずれにしても今の計画より減らして、文字数や内容を圧縮したり、数値化してわかりやすくつくっていきたくて考えている。帯広市のパブリックコメントでも簡素化したことによって「わかりづらい、抽象的すぎる」との意見もあるが、それについては個別計画といって、例えば銀河福祉タウン計画がある。これは総合ケアセンターが中心に高齢者や障がい者の事業推進計画が3年間を計画期間として作成されている。このような個別計画が色々ある。道路整備計画だとか、公営住宅整備計画、橋梁長寿命化計画などといった事業ごとに、さらに細かい個別計画があるので、そういった部分で詳細は定めていただいて、総合計画については総括的なもの、大きくくりしてお示していきたい。これについても、いろいろな意見をいただくというのは非常に難しいとは思いますが、これまでの計画のようなつくりかたをするのか、今までの計画よりは内容を凝縮したほうが良いのではないか、というようなご意見をいただければ。

杉臣会長 今の内容についてご意見等はございますか。

委員 ひとつ聞きたいが、昨年11月に、福祉でまちづくりの関係で記念事業をやっている。その中で、医療や福祉についてのワークショップを実施した。その福祉でまちづくりと総合計画はつながっていないのか。連携しているのか。それと、今話にも出た、町民へのアンケート結果ということだが、その中で町民の意見ってすごく大事だと思う。それを大事にしないとせっかく中学生や高校生を含めてアンケートをやっても、「ぜんぜん変わらないな」となるのでは、それ自体が無駄になってしまう。病院についても危機的状況、町の財政もそう。アンケート結果はきちんと活かしていかないと行かないのではないかと思う。そのへんをどう考えているのか。

杉臣会長 いまのご意見に対して、事務局からお願いします。

事務局 最初にあった総合計画の位置付けだが、総合計画というのは基本的には本別町における計画全般の最上位計画であると位置付けしている。基本的には10年間の施策あるいは将来像を目指すことを整備するなかで、この計画にそれぞれの福祉の分野であったり、道路、環境衛生医療といったものの全てが総合計画本体の中に書かれていることを基本として、それぞれの個別計画をそれに反することのないように作るというふうに行行政のなかで位置付けしている。当然、私共が対外的に説明するときには、必ずこの総合計画の中にそういう精神・理念は位置付けられていることを踏襲して、先程説明した銀河福祉タウン計画だとか、反することのないよう整合性をとることになっている。2つめの質問では集会のなかでも、例えば地域福祉については2月にも報告会があるように聞いており、基本的には同じ理念、考えかたとして、それぞれの担当としても意識してやっているという実状である。

委員 できるだけ幅広く、元気にみんなで協力しながら良い意見を出し合って、取り組んで行かないといけないと、改めて思いましたので、宜しくお願ひしたい。

事務局 今委員がおっしゃられたことにもうひとつお伝えしていなかったことで、この総合計画を現在、作成している作業については、当然、議員の皆さんも理解いただいている部分で、この関係については、6月と9月の議会でも「できるだけ多くの町民の皆さんの考え方だとか意見を拾うような取り組みをしてください」と言われている。その一つの手法としてアンケートの集計がある。事務局側で現在考えているのは、もう少しこの作業が進んで行った段階で、例えば、経済団体のある農協あるいは商工会にも進捗状況を見てもらい、農協、商工会の立場で見てもらったときに意見等があるかということや、それぞれの主要団体にも経済団体にも見てもらうように考えている。また、最近はこの町でも実施しているパブリックコメントを、計画案が出来上がった段階でホームページや閲覧できるように役場や出張所に冊子を置いておいて、見てもらうなかで何か足りない事だとか、あるいは意見が違ふことがあれば、それをパブリックコメントという形で意見をいただく。それについては、例えば今回の帯広市の参考例、資料2として添付しているように、意見をもらって、案を修正したものが今日の資料1のようにまとめるという形になっている。意見をいただいたものがこのように修正しましたと下線標示されている。その結果は、事務局だけではなく策定審議員の皆さんにも見ていただいて、案を修正しようとか、あるいはこの10年でこれは難しいと思われるので、次の後期計画の中で審議していこう。などとなる。ただ、委員さんもおっしゃったように、小さな声だとか意見などについても、皆さんに集まっていたらいい、このような場で意見を上げていきたい。

事務局 先程、資料4を後程ご覧いただきたいというようにお伝えしたが、資料4の2ページを見ていただくと、「空き店舗をうまく利用して…」という意見があるが、それに対してケアセンターでは空き家の調査は行っているが、今後、空き店舗に対する状況把握も必要であると認識しているとなっている。また、3つ目のNo. 83で「高齢者の方といっしょに買い物をする」という支援が必要であるということについては、“車で一緒に買い物に行く”というサービスは行っていないので、今後検討を進めるというケアセンターから回答があった。まだ全ての部署で方向性が決定していないこともあり、今回の3つの部署については、概ね予算措置が無くても実施できるものだとか既に実施しているもの、次年度以降に取り組んで行くというような形になっている。今後は他の部署、特に病院に関してはさまざまな意見があるため、対応整理がされ次第、お示ししていきたいと思っているし、ホームページにも経過を掲載して町民の方々に返していければと思っている。

事務局 今日の会議も委員が初めてという方も出席されていて、今日の会議で何故この話をしているのか理屈のところはわからない方もいると思うので、私の方から、この会議で何を審議するのか、数値目標を設定するか、キャッチフレーズをつけるか等、なぜこのような話をしているのかと申し上げると、今後の流れとして、総合計画のいわゆる素案、形を役所の人間がまとめて、それをまたいろいろな人にご審議いただくという作業がこの後続いていくということで、そのために、まずは作成するための入口として「今こういった形で作っていききたい、作っていく」というようなことを今日、確認を

させてもらって、この後の議論につなげていくという状態になる。その作業を進めて行く中で、キャッチフレーズがどうであるなど、必要性について出できた段階でいろいろなご意見等をいただきたい。今日の段階では大枠を決めていくというような話になるので、そういう視点でご意見をいただけたらと思うので、説明させていただいたところ。

杉臣会長 ありがとうございます。今の事務局側の回答をふまえて、わかりやすいように内容をシンプルにするということについて、何かご意見等がある方はいらっしゃいますでしょうか。

委員 先程の話で活字を少なくするかどうか、どの冊子にしても文字だけが50ページだと見ない。アンケート結果のようにわかりやすく図とか入れて見やすく、文字だけにならないように工夫してくれたら見やすいしわかりやすいのではないかな。

杉臣会長 ありがとうございます。私も文字ばかりになると最後まで読めなくなってしまうと思うので、先程、目標を数値化しましょうと言っていたように、レイアウトを工夫して見やすくするだとかしたほうが目に入ると思うので良いと思います。今のことについて、何かご意見等はございますか。

委員 町の根本だと思う財政についてはどこにも書いていない。税収がいくらあるとか支出がどれくらいあるかということがどこにも書いていない。そんなことで総合計画というのは成り立つのだろうか。例えば10年後の本別は5,000人になる、5,000人のうち高齢化が進む、生産年齢人口が減る、農業者収入が減るかもしれない、町の税収がこうなる、交付税がいくらになる。福祉にいくら使える。産業にこれだけ使える。というような具体的な収入が無ければ何も出来ないような気がする。帯広の素案を見ても、税収がいくらになるとは何も書かれていないが、人口が減るといったようなことは書いてある。この辺に独自性を出していただいて、最終的にどうなるのかは分からないが、前提条件として、本別町の税収は無駄じゃないと、その費用でどういう取り組みが出来るのかという具体的なものを挙げて政策を作っていかないと、お金が無いから出来ませんでした。というようなことになってしまうのではないかという懸念がある。「立派な総合計画が出来ました、しかし、本別町は10年前に得た税収と比較すると3割も減っていました。したがって、計画は実行できませんでした。申し訳ありませんでした。」というような話になってしまうのだったら困るというのが私の感覚である。財政状況というのはここには出してはいけないということはあるのか。

事務局 そういうことはないのですが、今のご意見も参考にして検討していく。

杉臣会長 ありがとうございます。今のご意見と回答をふまえて、財政上のことについて何かご意見等はございますか。

事務局 委員さんのおっしゃる通りで、厳しい現実もやはり隠すのではなくて、「人口がこれくらいになるとこういうことで、将来はこれに取り組まなければならなくなりますよ」ということなど、10年先を見据えて皆さんにあらかじめ理解いただくこととか、皆さんと一緒に考える資料提供をしていくことも大事だと思う。私が役場に入庁したときは人口12,000人がいたが、今も施設数はほぼ変わっていない状況。これが7,000人になり、6,000人になっていく。例えば2人で使っていたものが1人になって、10年間で施設の統合をどうしていきましょうか。という協議も必要だと思うので、今、いただいた意見を踏まえ素案の中に反映させていきたいと思う。

杉臣会長 他にご意見はありますか。

委員 10年後の計画で財政の話であったが、3年ほど前に地域密着型老人ホームという計画があって、それも当初計画の方では期間を決めてやっていた。それが3年経った今、もう一度その計画を立て直していて費用が倍になっている。結局6億近い費用がかかる。じゃあ、地域密着型に出来るのかという話になってくる。それで今はその10年後を財政が分からないのに計画だけを立てて、数字だけでものと言ってはいけないのではないかなと思う。そのへんの考え方とかを聞かせていただきたい。

事務局 今お話にあった通り、一番難しいのはそのあたりであって、10年前に施設をこうして行こうと計画があった。例として、平成の初期の頃には総合運動公園構想、福祉ゾーンの充実ということで、皆さんも絵を見たことがあると思うが、今の病院の周りには町民プールだとか体育館などの運動施設

を建設して集約していこうという計画があった。ただ、ご承知のとおり、バブル経済の破綻、財政の大きな負担によって計画は戻されて、野球場とか一定の施設を整備しながら、当初の計画よりは大幅に変わった経緯もある。ですから、施設の計画という部分が一番難しいところだと思うので、やはりこの計画を作る上で最終的には皆さんの意見を聞いて進めていきたいとは思いますが、施設だとか設備だとかというのは、皆さんの生活あるいは活動される上で、補助的な意味で施設ありきでまちづくりというのはないと思うので、当然、皆さんの生活にとって必要な施設は整備しなければならない、改修しなければならないという考え方もあるかと思う。したがって、総合計画の中でうたっていくと仮に説明するならば、やはりそういった生活に必要な環境を整えていくとか、必要な施設を整備していくとかというような基本的な考え方を示したなかで、じゃあ、それはいつか、あるいはどれくらいのかでということ、先程も言った個別計画に委ねるとこのような形になってくるかと。ですから、当然、財政的なこともそうだろうし、そのときに利用する人数等にもよるが、考え方としては、そういったものを必要とされる町民の方々がいることをしっかりと踏まえ、どう計画を立てて考えていくかということは皆さんの声を聞くということ。

杉臣会長 よろしいでしょうか。それではわかりやすいようにシンプルにすることについては、わかりやすいように文字だけではなく、見やすいようにとの意見があったとおりで、よろしいでしょうか。
(はい)

(6) まちづくりに向けたキーワードの確認 (別紙2)

杉臣会長 では議題(6)に移ります。まちづくりに向けたキーワードの確認について事務局からお願いします。

事務局 5ページの別紙2について説明。まちづくりに向けたキーワードということで24個ほど提示させていただいた。これはこれまでの審議会の中で出たご意見等やまちづくりセミナーの中で出たものとアンケートの内容を集約したようなものである。このキーワードについて何か足すべきものがありましたら、ご意見をいただきたい。

委員 よろしいです。

杉臣会長 よろしいでしょうか。そうしましたら、これについてはこのままで良いということで次に進めます。

(7) 目標の明確化「施策の重点」(別紙2)

杉臣会長 それでは議題(7)目標の明確化「施策の重点」について事務局からお願いします。

事務局 この24のキーワード以外のことでもこういうに力を入れてやってほしいというご意見を受け賜りつつ、やはり先程の話でもあったように財政状況を考えた中では全てのことにお金をつけて力を入れていくということは非常に難しい状況になっている。また、人口減少のなかで何にどう力を入れていくかということ、これを明確にしていかなければと考えている。その中で皆さんにご意見をいただきながら、委員として「私はこう考えていますよ」「これを重点的にやってほしい」というようなご意見をいただきたいと思っているので、よろしく願いたい。

杉臣会長 今のことにつきまして、何かご意見・ご質問等ある方はいらっしゃいますでしょうか。

事務局 できればこの中である程度絞っていきたいなと思っていたが、今後の部会の方の話し合いで検討していただきたいと思っていて、部会の中でも個別の案件、細かいことについて議論いただいたりご質問いただいたりという形で考えている。そういったことを含めてやるような部会にしていった方がわかりやすいかなと思う。前回までに出ていた部分については若い方が本別に残っていただけるようなまちづくりとか、アンケートの中では、医療・福祉の充実、安心・安全な暮らし、教育の充実といったようなことが多く出ていたところ。そういったことや基幹産業、農業・林業の拡充だとか。町の事業を実施していくにあたって税収を上げていかなければならないと思っている。特に、皆さんか

らご意見が無ければ、専門部会の中でも並行して取り組んで行きたいと思うが、いかが。

委員 重点施策とかについては部会でやっていたほうが良いと思う。ただ、各部会のなかで共通する議題が出てくるかもしれないので、そういうのは一緒に協議していくというような形をとって進めていった方が良いのかなと思う。いずれにしても、各部会の中で重点施策を5つも6つも出すと大きくなり過ぎるので2つ、3つにくらいにまとめられるような形で重要な施策を作っていくというやり方が良いのではないかと思う。それで、教育問題は子どものことひとつにしても幅が広すぎる。昔は本別の学校では各学年でクラスがいくつもあったが、今は勇足、仙美里、本別を合わせても3クラスというように人数が少なくなっている状態。もしかしたら、10年後複式学級になっていたりするかもしれない。そんな状態では、本別の子どもたちは充実した教育が受けられるのだろうかかと危惧している。出来れば、小中一貫でひとつの学校に集めて、協力していく。本別の学校を卒業した子どもは教育レベルも高くて、いい学校に進学して、いいところに就職できるというような子どもを育成していくということを重要な目標にしていけばインパクトがある。

杉臣会長 ありがとうございます。今のご意見について、あるいは別のご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

委員 今、7次計画で何を重点的に取り組むかという話だったが、では、逆に、6次計画までに何を重点的にしてきたのかを教えてください。

杉臣会長 では、今の質問に対して、事務局から回答をお願いします。

事務局 こちらの6次計画の冊子だが、最初に6次計画の中で議論されてきたものがまとめられているところがあって、19ページにめざす姿というところで、当時、全てのまちづくりを結んでいるのは、いわゆる木の根から生えて植物の絵になぞらえて整理されているが、町民一人ひとりの学びを活かしたまたはマンパワーを活かした人づくり・人材づくりから、それを基にまちづくりを進めるということを目指して、掲げている。また、やはり地域資源を最大限に活用して、産業・雇用を重点にしていこうと、そして、その上に皆さんの日々の暮らしを守るため、安全安心・健康、それらが保険・医療・福祉の一体的な制度と相まって充実した町民のみなさんの生活を支えていこうという議論で6次の計画はまとめられている。さらに、その実現のために、主要政策というように分けていて、13ページからを見ていただくと、主要課題ということで、5つの主要課題が記載されている。1つ目の部分は、新しい仕事づくり、新しい仕事を作っていきますよと。つまり、仕事の働き手を確保するというのは本別町にとってはテーマとなっていて、地域資源を活用しながら新しい仕事を作っていきますかということ提案している。2つ目には、少子高齢化・子育て対策の取り組み、そして3つ目には、委員の皆さんからも話に出ていた、高速道路網・高速通信網の利活用、これは5次のときから変わっていないというご指摘もあったところ。そういったものをどう活かしていくかということで、1、2、3と説明させていただいたが、それらを含め5つの必要な事柄を6次計画の中で主要課題として触れている。はじめに言った新たな仕事づくりでは、今ではあたりまえだが6次産業化だとか、農業の生産のところから加工・販売までを実施していこうだとか。今は少しずつ進められているが、そういったものを含め、あるいは、先程も申し上げた『地産地消』というところで、例えば豆を題材にした製品開発だとかをして地元で販売していくといった取り組みを実施していく。そのような形でまだ出来ていないところは、7次計画にも同じように引き継いでいかないといけないと思うので、必ずしも6次の内容と全く違うものでなければならないというものではないと思っている。

委員 今の説明でも5つあったが、結局主要な仕事のことにしても、それを若い人達のためにやっていくというのは、まだ7次の計画でやっていくべき。それはその計画であって、結局、それをどこでやれるのかということを中心に整理して、ステップアップするとなると思う。では、今、話があった計画がどこで出来ているのか。どう評価するのか。

杉臣会長 今おっしゃったように、まず現状を認識しないことには現計画は数値化していないので、どのようになっているのかがわからない。今回の計画は数値化をすると方向性を決めたので、それを活

かしてということではよろしいでしょうか。

事務局 十分な総括とは言えないかもしれないが前回の11月14日の策定審議会のときに、第6次の総括シートということで第1章から第3章までを配布し、本日の配布資料の中で、4章から5章を配布している。これが6次の総合計画の総括でそれぞれページに準じて順番ごとに整理したものである。後程提案させていただくのは、審議委員の皆さんには申し訳ないが、それぞれ部会に分かれて張り付けていただくと、自分の部会の部分一通り目を通していただくと、「あ、こんな取り組みをしてきたのだね」ということを見ていただいたなかで、「やりかたが足りない」「もう少しやり方を変えていった方がよいのではないか」などということを見ていただきたいと思う。今日配布した資料の4章から5章の中で、例えば162ページのところで、前にお配りした1から3章までの繋がりページをふつてあるので、162ページをご覧いただきたい。ここで、第6次総合計画の上の方から見ていくと、第4章の「快適でやさしさのあるまちづくり」の第1節「人とモノの交差点、交通、情報ネットワークの確立」、そして第1項「総合交通体系の整備」さらにその中の細かいところで(2)の「人にやさしい道路網の整備」ということで、総合計画書では69ページに書かれていまして、この番号と同じようになっています。ここでは人にやさしい道路網ということで表の真ん中あたりに、バリアフリー化した道路の延長ということと場所が書かれている。平成19年度から30年度にかけてバリアフリー化した整備箇所とそれぞれの進捗状況が載っている。それぞれ、目標としていたこと、それからやろうとしていたこと、そして達成状況ということで、さらに下段に今後の動向・方向性ということで、市街地全体の人の流れや通学路など重点整備および路線を決めて、さらに計画的に整備を進めていくということが書いてある。また、現況の歩道の状況に応じて電柱の移設などを最善の方法を検討しなければならないということが書いてある。そして、直近5年間の実績・予定額ということで千円単位で表している。なので、バリアフリー化でいうと令和2年度の予定額は300万円の予算を予定している。今の第6次の計画は、令和2年度までが計画期間であるので、最終的にはこの予定額を含めた中での総括ということになる。こういった部分は大変だが、それぞれ、また後程、提案させていただくが、それぞれの担当分野については、目を通していただくと、「ここはどんなかんじでやっていったのかな」というようなことも見ていただいたなかで、それぞれ第7次の計画に向けてお話をしていければと思う。

委員 自己評価はしていないのか。◎、○とか△×とかというような自己評価はしないのか。

事務局 この総括表の中での文章により総括となっている。

委員 これをやってといわれても、みんな0点ではないのか。あと、道路整備について、これはどこの道路のことを指しているのか。北西1条道路とはどこか。

事務局 道路については、町道路線で住所では無い。

委員 我々が見たときにこれはどこにあるのとなる。

事務局 土木で使う用語になっている。

委員 何丁目のどこと言ってもらわなければわからない。

事務局 委員さんが言うように「何丁目の△施設の地先から役場の体育館の地先まで」などというわかりやすい表現が必要。

委員 自分で評価していくのはおこがましいかもしれないが、やはり自己評価をしていただかないと、資料だけを見ても6次計画がうまく行ったのか、失敗だったのかということは判断出来ない。第1回めのときに他の委員が言っていたけれど、6次計画の結果について反省会みたいなものはやっているのかという話もあった。議会で予算審議をしているから、議会審議は終了しているから、それは整理されているという考えかもしれないが、我々、計画を審議していく中では、6次計画が計画通りに進んだのか、それとも出来なかったのか、それを第7次に活かさせていけるのかという観点で論議をしていかなければならないのだから、何の反省もなかったら、今回はこの部分ができなかったのだから、次回はしっかりやろうと、そのように目標していけないと、出来なくても良いのか、それならば計画

は作らなくてもいいのではないかとなくなってしまう。

事務局 おっしゃられるとおり、どうしても、それぞれの分野をよくよく見ていただくと、これは行政の計画である。道路整備だとか道路維持は終了することなく、皆さんが暮らしている以上は、施設の維持もそうだが、施設の新設があってその施設を建てたことによって効果や利用者数がどうだったのかということは評価しやすいが、体育館の運営維持だとかは施設がある以上、通年で計画の有無に限らず続けるわけで、その10年間の施設の運営としてはどうだったのかという、先程おっしゃられたように利用されていればいいというわけではなくて、利用している人を守ることが大事なのではないかということ。あるいはそうではなく、その10年間でいかにコストを抑えて運営したのかなど色々な評価の観点も意見があると思う。今、委員が言われたようにそれらを想定して自分たちはどういうふう考えたのか、そういったことがないと委員さんとしても、評価はしづらいのではないかというご意見だったと思うので、そのへんのあり方について、今回は数字メインで書いてある。例えば10年間で体育館の運営に毎年いくらかけているのか、だからそれがどうだということが正直見えづらいという部分があると思うので、もう一度第1章から第5章までの資料を、今言った部分のあり方をどうするかというのは、部会までに私共の方で議論していく。その他に意見等があればお願いしたい。

杉臣会長 ありがとうございます。評価を含めて、次の部会までには資料等を作成いただくということで、この他に何かある方はいらっしゃいますか。

委員 今、委員が言ったように、政策の方も含めて重点としているところをどのように評価していくのか。評価するにしてもわかりやすい評価のあり方を考えるべきでは。

事務局 今お話にあったとおり、5つの部分についてもどう評価していくかをこちらで協議していく。

杉臣会長 これは次回までの宿題とすることよろしいでしょうか。

(8) 部会の開催について（第6次総合計画後期計画総括）

施策別シート分担

総務部会	第1章第1節 P1~3、第1章第4節 P26~29、第2章第4節 P84~89、 第3章第3節 P144~157、第4章第1・2節 P158~174、第5章全節 P202~219
産業建設部会	第2章第1節~第3節 P30~P83、第4章3節 P175~201
文教厚生部会	第1章第2・3節 P4~25、第3章第1・2節 P90~143

4. その他

表紙の選定について=イラスト、写真

杉臣会長 そうしましたら、議題についてはこれにて全て終了したということになりますので、その他ということで事務局の方からお願いします。

事務局 その他にあるように表紙の選定については今後また話をしていくが、イラストだとか写真などを町民の方から広く募集をして決めていくような形をとっていただければと考えている。あと、部会の方だが、先程も話にあったように各担当で割り振りをさせていただいている。総務部会だと第1章第1節1ページから3ページ、そして4節の26ページから29ページ、以降は記載のとおり。委員のご自分の担当になっている部会についてはレジュメのお名前の下に部会名を記載させていただいている。北谷委員であれば総務部会で部会長を務めていただく。割り振りさせていただいた分扱は1部会70ページから80ページほどなる。まずは読んでいただいて、質問事項や意見がありましたら本日、添付しております、第6次総合計画疑義確認票にページ数と事業名とこんなことがわからない、また、これに対し意見があるということに記載いただき、2月6日までに提出いただきたい。これは、FAX・電話、メールにて提出と書いてあるが、返信用封筒も後日お送りするので、ご意見をいただ

きたい。この質問いただいたものを部会の中で確認していきたいと思っていて、部会については2月に開催をするという形で部会長さんと日程調整をさせていただきながら決定し、連絡をさせていただくということで考えている。

今後の予定について

事務局 今後の日程について、議案の3ページになる。前回説明させていただいている部分と重なるところもあるが、次回の審査会については、2月下旬に開催させていただいて、めざすべきまちの未来像についてお話をいただきたいと思う。これについても、部会と並行しながら進めていきたいと思う。そして3月に5回目を、翌年度になって、6回目を5月中旬に、6月には7回目ということで、ここでは基本構想・基本計画について、具体にお示ししながら議論いただければと思う。最終的には9月の議会に提案するというので6月には素案を作成しながら町民の方々からパブリックコメントにて意見をいただいて計画づくりを進めていく考えである。部会の開催までには事務局総括を作りながら、資料を配布させていただきたいと思うので、よろしく願いたい。

杉臣会長 今の件につきまして、何かご質問・ご意見等がありますでしょうか。なければこれにて閉会とさせていただきます。よろしいでしょうか。

事務局 部会については、例えば総務部会の方が文教厚生部の担当になる教育に関して意見があれば、先程の調書に記入して提出いただくという形で進めていく説明を付け足させていただきます。

委員 それはどのようにやっていくのか。

事務局 1回目の審議会の際に委員よりお話があった。それぞれの部会において協議いただきますが、例えば、北谷委員さんは総務部会ということになる。教育のことでは、文教厚生部会での議論になるが、教育に関して意見をしたいという場合には、文教厚生部会には入っていただけないが、調書の中で「このように教育を進めていってほしい」というような意見を先程の疑義票に記入していただきたいと考えている。

事務局 基本的に必ずしも用紙に記入しなければならないというわけではありませんし、今後もまた議論を重ねていく上で、当然また全体で議論することが出てくると思うので、なるべく早い段階からそういったものも自分が属しているところだけではなく、生活する上では全般が関わってくるので、決して垣根をつくって、ダメということではないとご理解いただきたい。1回目のときに他の委員さんから意見があったので、必ず所属部会のことだけを議論してほしいということではないということでご理解いただきたい。

委員 まだ1回も7次計画の話について計画は立ててないのだが、第6次のことについて基本計画の内容を委員の皆さんに確認してもらうということか。

事務局 そのとおりであって、今回は先程申し上げた、自己評価がまだ入っていない総括シートではあるが、この6次の総括シートを参考に今後10年間としてはそれぞれの分野ごとのなかで、「まだ6次の計画では足りないので、次も継続してやるべきだ」などといった意見をそれぞれの部会のなかで出していただく。道路やバリアフリー化については、引き続きやってほしいとか、そういった部分をページ毎に見ていただいて「これはもう終わったから次の計画にはいらんのではないか」とか「もう時代的にそぐわないのではないか」ということを出して、これがタタキ台となって7次に繋げていただくと考えている。

委員 7次を作成するにあたっての参考にしてほしいということなら分かるが、この資料の書き方を見ると。計画内容の確認と疑義確認と書いてあって、6次の後期基本計画の内容確認及び疑義確認と書かれていると、我々に6次計画の後期分も反省をさせるというように捉えてしまう。

事務局 ことばが足りなかったが、総括シートの中で、それぞれ原課の方で「こういうふうに行ってきました」ということが書いてはあるが、どうも書いてある内容がわからない。先程委員さんからもあったように、この北何条通りとはどこか。書いてあることが分からないということも多々あると思う。

それは私共の使っていることばだとか、資料としての特殊性なところもあるので、そういうのに加えて、もうひとつ「〇〇を整備したと書いてあるがどこのことを言っているのかが分からない」などということが資料に目を通すことによって、「どうも行政が言っていることと現実が違うのではないか」ということもあるかと思う。そういったところを先程こちらからも説明したように、皆さんが部会に入る前にもう一度説明資料だとかあるいはもう少し資料を丁寧に作り直した方が良いのではないかと、いうところも、もしあったらお寄せくださいということ。もちろんこれはこの紙に書かなくても電話一つで結構で、「〇〇ページの〇×なんだけど…」という形でも。メールでも、FAXでも構わない。いずれにしても必要であれば私共の方でそれぞれの担当に確認しつつ、必要であればもう少し資料の作り方を変えるなど、そういったことも考えていくのでご理解いただきたい。

委員 部会の会議自体について、今の段階ではないが、評価して出てきたことに対してまた違う答えが聞きたいとなったときはどうするのか。

事務局 それはまたその段階で繰り返していけばいいかと。

委員 それならば、きちんとした段階で出してもらって、それを見てみんながどうなのですかという質問をしてもらった方が良いような気がするが。

事務局 少し難しいと思っていたことが、例えば、評価のところも多分いろんな評価の観点があると思われる。いわゆる事業費としての評価もあれば、成果としての評価もあるだろうし、町民の皆さんから見た評価とは違うというのはもちろんあるが、そのへんの評価のあり方を含めて私共で一度持ち帰って、今どういう視点の評価がいちばん町民の皆さんにわかりやすいか、委員の皆さんにわかりやすいかを研究させてほしい。全然違うことを言っているとなっても困るので、そういうことはないように整理させていただきたい。それで委員さんが言われるように、それを見て私たちの考え方も変わるのではないかと、いうことでよろしいか。

委員 質問してくださいということと聞きたいものによって出てきた状態で、それではこれに対してどうなったのですか、という聞き方になるのではないかと思う。評価がされていない段階でこれはどうなのですかという質問をすればいいのか。

事務局 おっしゃる通り、まだ足りない部分はあると思うが、総括シートに共通して書いてあることというのが、「こういうことに務めてきた」あるいは「こういうことに取り組んではきている」と。それで、「今後もこういうものには取り組まなければならないと考えている」というような書き方が大体共通している。「こういうことはまだ必要だと思っている」となると、必要だと思っているということは足りないと評価しているということで捉えてもらって結構だし、「今までこうしてきました」というのに対しては「やってきた結果がこうなんだ」と、ただ、町民の皆さんから見たときには、「いや、それって実はあまり必要とされてないのでは」ということも細かく見ていったらあると思う。それも私共で一度持ち帰って書き振りを点数なのか〇×△というふうにつけるのか、それとも書き振りのなかで、ちゃんともう一度わかるようにするか表現のあり方については、持ち帰って勉強させていただきたい。

委員 担当のところを評価したらいいのか。

事務局 自分の担当のところの計画作成別政策別シートを読んでいただいた方がその後の話は入っていくと思う。今、説明にもあったように、中身は計画がどうであって、進捗状況、あと町民のためにこういう成果が出ていると書かれているので、それを読んでいただいたなかで、疑問等が出てくると思う。その部分を質問いただいたなかで、また、議論の中に返答していくというように考えていた。

委員 この用紙の欄の分全てを記入しなければならないのか。

事務局 この用紙の欄の数に限らずに記入していただいて結構。

委員 要するに、各部会の自分の担当するところを読んで、意見等があったら書いてほしいと。あと、わからないところがあれば、この用紙に書いて教えてほしいという意味でよろしいか。

事務局 その通りである。

5. 閉会

杉臣会長 事務局で評価のシートをまとめたら、それを交えて質問とか意見等があれば、次の会議で議論していくことになりますので、皆さん宜しくお願いします。ではこれにて、今回の審議会は閉会といたします。お疲れ様でした。

(資料)

第七期帯広市総合計画【案】 資料 1

帯広市パブリックコメント意見募集の結果公表 資料 2

第6次本別町総合計画後期基本計画策定別シート（第4章～第5章） 資料 3

町民アンケートで指摘・要望事項について、現在までの実施状況 資料 4